

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475300602	事業の開始年月日	平成15年7月1日	
		指定年月日	平成15年7月1日	
法人名	医療法人社団 東華会			
事業所名	サリユールたかつ			
所在地	( 〒213-0023 )			
	川崎市高津区子母口 498-4			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	0 名	
		通い定員	0 名	
		宿泊定員	0 名	
		定員計	27 名	
		ユニット数	3 ユニット	
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果 市町村受理日	平成25年5月15日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成24年度に事業所として力を入れた点は、訪問しやすい、訪問にまた来なくなるホーム作りを目指しました。安心、信頼、使命感を理念と掲げる中で訪れる方々にも実感いただける為にまずはホームを穏やかで温かい雰囲気にすることを心がけました。どんな人達に、どういう支援を受けているんだろうとご家族は当然考えるはずです。そんな中、笑顔もなく機械的なケアをする職員を見れば、さぞや不安に感じるはず。入居者様に心からの支援の気持ちを持ち、共に働く仲間を大事に思い、介護の仕事に誇りとやりがいを感じて明るいホームにしていくことを実施してきました。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成25年3月18日	評価機関 評価決定日	平成25年4月30日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

#### 【事業所の優れている点】

◇ターミナルケアについては「看取り計画」があり、事業所の方針は「寝たきりにしない」、「最後の時まで皆と一緒に過ごす」とし、通常の生活を続けることを実践している。今年2月に95歳の利用者が亡くなられたが、死の直前まで、フロアーで皆と一緒に過ごし、職員の話しかけにも「うん、うん」と頷き、通常の生活を続けられた事例がある。  
新任、看取り未経験者には管理者より研修、先輩のアドバイスがあり、最後まで思いを残さず見送ることができるよう職員が一致団結してターミナルケアにあたっている。「チームワークの良さ」がしっかりしており、医師、看護師との24時間の連携ができています。

#### 【事業所が工夫している点】

◇法人の理念と併せ、各フロアーごとに、あたり前の理念、実践できる理念、押し付けでない理念を各フロアーの職員が皆で考え作りあげた。  
1階 利用者の笑顔が増える自立支援、2階 寄り添う介護、3階 笑顔が生まれるコミュニケーション、利用者の笑みは職員の笑み、生きがい、やりがいに繋がっている。  
◇日々のおやつ、週2回の食事作りは利用者の意向を取り入れ、地域の商店に買い物に出掛けている。利用者のその日、その時に食べたい物をメニューに取り入れることもあり、一緒に買い物に同行したい利用者もおり、外出支援に一役買っている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	サリューブルたかつ
ユニット名	1階 2階 3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念にある「安心、信頼、使命感」を申し送りの際に管理者、職員で参照している（不定期に） 安心する生活環境の提供、日々の生活を安全に心からの支援で信頼関係を築き、入居者の思いに添えるようにしている。	・法人の理念「安心・信頼・使命感」に併せて各ユニット毎に理念を作り上げフロアーに掲示している。 ・日曜カンファレンス、全体ミーティング時に理念の確認を行い、日頃のケアに実践されているか、振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員会を開催し地域包括支援センター職員の参加により地域との関わり情報を得ている。日頃より近隣店舗への買い物、散歩、地域開催の催しに参加し交流を図っている。	・自治会に加入しており、町内会の運動会、盆踊り、せせらぎ祭りに参加したり、事業所主催の納涼祭り等にはお誘いし交流を図っている。 ・食材や嗜好品の買い物に利用者と共に近隣の商店を利用し、地域の仲間入りをする努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターの地域メンバーとして地域で抱える問題解決に会議を通じて参加、アドバイスに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域に向けての取り組みがまだまだ出来ていません。 ホーム内においてはご家族と地域包括支援センター職員の意見を取り入れサービス向上に活かしている。	・運営推進会議は2か月毎に開催している。会議では事業所の運営や活動について説明し、また、地域包括支援センターや民生委員からは地域の困難事例などの情報を得て、意見交換をしている。	運営推進会議には自治会長にも参加いただき意見交換ができることと、また、家族の参加も複数の異なる参加を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村連携に関しては前年同様、地域包括会議において、お会いした際にホームの現状を伝えるようにしています。	・川崎市高齢者事業推進課とは認定更新時の際、事業所の現状や問題点を伝え、指導を仰ぐなど協力関係が築けるように努力している。 ・管理者は地域包括会議にオブザーバーとして参加し、情報を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、主任は常に拘束ととられかねない行為に対して注意払い、職員への周知徹底に努めている。身体拘束委員会を設置し常に注意、検討をし全職員が身体拘束のないケアを意識して実施している。	・事業所では「身体拘束委員会」を設置しており、身体拘束は絶対に行わないことを宣言している。 ・施錠は夜間以外行わず、出入り口ドアにセンサー音を取り付け見守りの徹底と、拘束になっていないかを職員間で常に確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアで陥りがちな気づきにくい言葉がけなどの虐待につながりかねない行為について都度、注意、説明ういし防止に努めている。内部研修により高齢者虐待防止法について学ぶ機会をもち全職員が意識して取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の成年後見制度活用があります。入居者の経済的状況や個人を取り巻く環境により入居後に成年後見制度のアドバイスをすることがあります。本年度は実施必要な方はおりませんでした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居から契約まで常に連絡を取っていきます。信頼関係やホームの雰囲気、考え方をご理解いただくようにしていますので契約時には特に問題ございません。改定が起こった際には先ず書面にてお知らせ、問い合わせにお答えし、ご理解を得てます		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の場において意見要望をおききして、日々のケアに活かし反映しています。ケアプランに意見要望をいただいた際には真摯に受け止め対応させていただいてます。	・毎年8月開催の家族会、運営推進会議、来訪時には声かけをし意見や要望を聞いている。またその際、個別に要望を聞く場を設けている。 ・家族から「本人が自分の部屋が分からなくなる」という声があり、ドアに写真を貼ることにした。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人として職員以降調査が実施されています。管理者は法人より、その中から職員の意向を伝えられ、個々に対処するように指導を受けます。ホームとしては毎年の契約時に個人個人と時間を設けて意見、要望を聞き取っています。	・法人は毎年書面による「職員意向調査」を実施し、事業所では毎年度の契約時に時間を設け、個人面談を行い意見や提案を聞いている。 ・職員からの日々の意見、提案は主任に相談、管理者は運営委員会に報告し、反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員にやりがいを持ってもらうように自らのやりたいこと、取り組みたいことがあれば率先して提案するように指導している。向上心を持つために資格取得には常に声をかけて、希望者には個人単位でのアドバイスを行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部内部研修を月に一回開催している。その後フィードバック研修を通して全職員が学べる体制をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人内においては主任交流会、利用者交流会、研修を通して交流を図っている。今年度は地域のケアマネからの紹介で地域の他社グループホームより体験外部研修の依頼を受け良い刺激を得られた。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人の不安、要望を充分に聞き取り入所後も日常の中から継続した聞き取り傾聴により本人の安心を確保できる関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の思いを十分に聞き取り傾聴し入居後も来所時などに本人の状況報告、家族の近々の思いを傾聴し円滑な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始時に先ず必要としている支援をききとり、状況などからも推測して助言、相談など対応につとめている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	先ずは本人と共に居ることを心がけている。 本人の残存機能を理解した上で出来る活動を考え、実施していただき、お礼を伝え、自分が必要とされていることを感じてもらっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所しやすいホームの雰囲気作りを常に心掛け、また来たい、居心地が良いと感じていただき、より家族とともに過ごす時間を長く持っていただけのように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	電話など遠方からの連絡は常に快くおつなぎしている（家族了承の上） 近所の方の来所時は個人との時間を持っていただき、お帰りの際には次回の来所をお願いしている。	・利用者の知人、友人の来訪時は歓迎し、居室でゆっくり一緒に過ごせるように支援している。 ・本人、家族の情報から、釣りが好きな人には家族の協力を得ながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を日頃より把握したうえで個々の状態を考え、席を配慮しお互いが関わりあい支えあえる環境づくりをしている。またコミュニケーションがとりにくい方にはスタッフが間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本年度、自宅退所された方では、2度ほどご本人、ご家族で来所され近況、経過報告を受けている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	スタッフとの会話、日々の暮らし、定期的なアセスメント、家族会からの希望、意向の把握に努めている。困難な方にはご家族からの情報、生活歴からも考慮したうえで本人本位に検討している。	・日常の会話の中から利用者の意向や希望を汲み取り、把握が困難な人には表情や動作から察知している。 ・「利用者満足表」を作成し、行きたいところ、やりたいこと、好きな物など5項目に分け、更に詳細に利用者の思いを記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のケアの中で何気なく本人から自身の生活歴などを聞き取ることも大事に考えている。家族からの情報サマリーの情報をサービス開始時に充分把握。更に継続して介護サマリーの確認把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン更新時には改めて個々の現状を会議している。日々の申し送り、介護日誌、連絡ノートの使用、活用により全職員が共通して個々の現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医、訪問看護師からの情報、アドバイスを取り入れ、カンファレンス、会議にてスタッフ間で意見交換をし、より良い介護計画を作成している。職員からの意見やケアのアイデアを積極的に取り入れ実施、達成感を得られる介護計画書を作成。	・本人、家族の要望や職員の気づき、工夫、時には主治医、看護師の所見を入れて日曜カンファレンスしている。主任がそれらをまとめ、新しいケアプランを作成している。 ・通常の見直しは3か月毎に、変化があれば即、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理者、各階スタッフでの申し送りと各階ごとの申し送りにて、その日の様子を報告、確認している。個別のケア記録に様子を詳細に記録し気づきや工夫をカンファレンス、会議にて検討、全職員周知のもとで介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在のニーズに関しては、理学療法士による歩行訓練、マッサージ師による身体機能の維持、ホーム内での個別歩行訓練のスタッフによる付添、見守りが行われている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源である等々力緑地には藤の花見、桜の花見を毎年恒例で実施。小学生の訪問による地域の方とのふれあい、近所の小川への散歩時、近隣住人との挨拶、会話。地域の盆踊り、お祭りに参加し地域資源を活用した援助をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に充分かかりつけ医の説明をおこない納得いただいている。訪問診療、訪問看護にて日々の体調管理ができています。本人、家族からの要望は即かかりつけ医に報告、適切な医療を受けられるよう支援している。	・利用者1名が入居前のかかりつけ医を希望し、通院している。 ・継続して医療機関を受診できるようにし、家族が困難な場合は職員が通院介助をし、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護時に個々の状況、状態を伝え、記録を開示し相談、アドバイスをいただいている。看護師は即座に主治医と連携を図り適切な医療を受けられる支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医との連携が取れている病院への入院が多く、スムーズな情報交換が出来ている。また必要な情報は迅速に提供している。退院については家族、病院と密に連絡をとり早期退院に繋げるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向け本人、家族に十分な説明をし納得されたうえで方針を決め共有している。状況や思いの変化じには都度話し合い検討している。またスタッフ、関係者全員で方針を理解し支援に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度化、終末期における方針については本人、家族と十分に話し合いを重ね、家族の同意と医師の診断に基づきターミナルケアを行っている。</li> <li>・「ターミナルケアプラン」を基に医師との24時間連携、全職員が方針を理解し、支援に取り組んでいる。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生に備えて迅速かつ冷静に対処できるようにマニュアルを熟知、研修を行い知識を増やし日頃から心構え、シミュレーションをし実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制を築くため、近所を回り災害時の協力、お願いをしている。避難訓練時、実際の状況を想定し実践方式ですべての利用者参加で行っている。訓練内容には地域との協力体制を視野にいれ取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練は夜間も含め年2回、利用者全員参加で実施している。職員のお大半が近隣在住で緊急時には即、駆けつけられる体制になっている。</li> <li>・地域との協力体制はないが隣接の「老健たかつ」と協力関係にあり、備蓄を含めた避難先になっている。</li> </ul>	災害時などを含め地域との協力は必要不可欠であり、協力体制構築に向け、更なる積極的な働きかけを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアから現在の一人一人の人格の尊重も考慮して対応しているアセスメント、サマリーから利用者各々に合わせたケアを実施。尊厳を重んじた接遇を常に心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員は利用者の一人ひとりの人格を尊重し、日頃よりプライバシーを損ねることのないように言葉づかいに配慮している。</li> <li>個人情報の含まれる書類は、施錠のできる書庫に保管している。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でスタッフは入居者の気持ちやニーズを感じ取り希望を表し、満足度調査を実施し思いや希望を知り、入居者が自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人らしく生活して頂き過ごせるようにホームの決まりごとや職員の都合で考えず、個人の思いを大切に本人本位の生活を過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には毎日、整髪、蒸しタオルでの洗顔で1日の始まりの身だしなみを整えている。訪問美容にて本人らしい希望の髪型をしてもらう。また口紅、マニキュアなどで御洒落に気を使っている。爪切り、髭剃り、耳掃除は定期的実施している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は各テーブルに職員がつき必要な方には見守り、解除を行いながら楽しい食事となるように会話、言葉掛けをしている。机拭き、おしぼり畳、下膳、食後の食器拭きなど残存機能を活かし、無理のないよう出来る活動は行ってもらっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者は職員とテーブル拭き、下膳、食器拭きなどを行っている。</li> <li>職員は利用者と一緒に食事をしながら食事介助もしている。</li> <li>誕生会には好きなおやつを提供し、色紙に寄せ書きをして贈り、お祝いしている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が共に食事を取ることで一人ひとりの状態をチェックしている。毎食の水分量、食事量をチェック、毎月の体重測定により適切な接種料となるように支援している。主治医からの指摘も食事に反映させ健康管理を心掛けた食事を提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全ての入居者の口腔ケアを実施、介助が必要な方に支援を行っている。口腔状態、介助方法の変更などは申し送りやカンファレンスで共有している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員の都合や効率で決して考えず、本人の1日の排泄リズムや習慣を記録、理解し様々なアプローチを試みて各々にあった時間、言葉掛けを検討、トイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄チェック表により排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導を支援している。</li> <li>・利用者が行ったり、来たりして落ち着きがない状態から察知し、トイレへの声かけを行い排泄を促すように心掛けている。</li> <li>・リハビリパンツから布パンツに改善された方がいる。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医からのアドバイスももらっている。毎日の体操、適切な水分の接種により予防に取り組んでいる。おやつはヨーグルトや乳製品を多く取り入れ、便秘者にはブルーンを取り入れ必要時には腹部マッサージも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ゆず湯や菖蒲湯といった行事を楽しんでいただいている。各々の気分や希望に合わせて無理のない言葉掛けをおこなっている。湯船には入浴剤を使用し気分よく楽しい入浴が出来るように支援している。介助が必要な方には残存機能に配慮、支援。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴は基本的には週2回、夏場は清拭の方もいる。</li> <li>・入浴をしたがらない方には、「お風呂に入ると気持ちいいですよ」と声かけの仕方や人を変えるなど、工夫をしている。</li> <li>・入浴剤の使用も取り入れている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状態に合わせた休息を心掛け介助を行っている。また以前の生活習慣を崩さぬように身体に無理のない範囲で昼夜逆転にもきをつけている。夜間はこまめな巡視を行い安心して休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬にもっとも注意を払い、ダブルチェックにて事故の防止に努めている。一人一人のサマリーを、処方箋を確認、理解して服薬支援をしている。また薬の変更などあった際には連絡帳に記入し全員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本年度は釣りの好きな入居者様を釣り堀にお連れし楽しんでいただく支援を実施。その方のADLにあった家事参加など残存機能を活かした役割を考え実施いただいている。散歩、買い物、レク、お祭りなど楽しく生活できる支援を心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度は普段行かない場所として海ほたるドライブを全入居者に支援できた。近所の小川への散歩には可能な限り出かけられるように日々心掛け支援している。外食の際には地域の店舗に理解いただきうけいれてもらい協力を得ている。	・利用者は車いすの方も含め天気が良ければ体調に応じて事業所の周りや、近場のせせらぎ川へ鯉や鴨を見に散歩に出かけている。また、職員と一緒に買い物に行くこともある。 ・花見時には車で等々力緑地へ弁当持参で外出したり、海ほたるまでドライブに行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人からの希望があれば一緒に買い物に出掛け本人の希望に副った品を購入出来るように支援している。またその際には楽しく買い物が出来るような言葉掛けにも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は自由にやり取りできるように協力体制が出来ている。電話は、家族の意向も考慮のうえ都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、掃除機と水拭きにて掃除を実施、常に暮らしやすさと安全を確保している。 各階ごとに季節感を感じられる掲示物や季節の歌の歌詞などを飾り付けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>共用空間のリビングは清潔に保たれている。壁面には川崎大師への初詣や納涼祭の写真、習字を飾っている。小学生と交流した際の感謝のハガキも飾ってある。</li> <li>リビングの席の配置は利用者の気持ちのあった同士となるようにレイアウトに配慮している。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの席では、なるべくお互いが居心地の良い方同士で集まれるように配慮している。また食事席の他にもソファを用意してあり一人での時間も取れるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様からの協力のもと本人が暮らしやすい部屋となるよう配慮している。本人の使用していた家具、大事な方の写真を飾るなど安心して居心地良く過ごせるように工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>居室には利用者が使い慣れた馴染みの整理ダンス、椅子、仏壇を置き、誕生会の色紙や貼り絵、家族の写真を飾っている。</li> <li>部屋のレイアウトは居心地よく過ごせるように利用者、家族の意向に沿いながら支援している。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に好きな場所へ好きなように移動するため、余計な物、危険な物は生活空間に置かない。また浴室、トイレ、居室には分かりやすく名称を明記して自立した生活が送れるような工夫をしている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名

サリユールたかつ

作成日

平成25年4月29日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	I・4	当施設の運営推進委員会の参加者に地域住民が参加していないことと複数の異なる家族の参加が出来ていない。	地域密着型施設として自治会長、民生委員、地元の有志の方に運営推進委員会に参加していただく。複数の家族に参加いただく。	毎月の手紙を通してご家族に主旨説明と参加依頼をする。行政のご助力も受けて左記有志の方々に地域密着型施設を説明理解してもらい参加のお願いをする。	他力が必要で相手の都合も考慮する内容の為 1年間をかけて実施する。
2	Ⅲ・3・5	災害時を見越しての避難訓練に地域住民の参加が出来ていない。	近隣住民に災害時の協力的体制の必要性と理由を説明、理解いただき、訓練から参加してもらおう。	現在進行形にて近隣住宅にご挨拶と災害時での協力、ならびに訓練への参加依頼を進めている。更に積極的な働きかけを継続していく。	他力が必要で相手の都合も考慮する内容の為 1年間をかけて実施する。
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。